

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第24回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2024年 **8**

地域連携学生プロジェクト KASANEO × ねこのしっぽ

楽しさで織る 自由闊達な衣服

ファッションを通して多世代交流を図る「KASANEO」が、世界中でたったひとつのモノを…をコンセプトに制作する「ねこのしっぽ」の壽 順子さん取材しました。

【ねこのしっぽの想い】

芸術大学出身の壽さんは、人の肌に直接触れる布という素材に親しみを感じ、布生地を使った立体作品をつくる作家として活動をされていました。その中で、ご自身の娘さんのお洋服づくりを始めたことが「ねこのしっぽ」のきっかけとなります。壽さんは会社などの組織に入ることや何かに縛られることに抵抗があり、自由闊達な方です。オーダーされるものをつくるのではなく、「楽しんで好きなものをつくる」をモットーに、自分の個性と経験を活かして、オンリーワンのものづくりを行っています。

「ねこのしっぽ」という名前は、猫好きということと、海外に向けた発信を目標にしているため、日本特有の丸みのあるひらがなで表現したかったとのこと。

ねこのしっぽは、オンラインストアでの販売をはじめ、地元宇治でのイベントやマルシェ、百万遍の知恩寺で開かれる手づくり市などへの出店、阪急百貨店でのポップアップやラフォーレ原宿のイベントなど、地域を超えて幅広く活動しています。

【ねこのしっぽ 唯一のオーダーメイド】

ねこのしっぽさんが唯一オーダーメイドで制作したものの、それは自分のお子さんの洋服です。娘さんにせがまれてくれたラプンツェルのドレスの写真を見せていただきました。「少し面倒だったけど喜んでくれて嬉しかった」と楽しそうにお話されました。

また、自身の母親からもらったスカートを娘さんのトップスに仕立て直したこともあったそうです。衣服をリメイクし、世代を超えて引き継ぐことは、KASANEOの「ものとしてではなく、思い出として受け継ぐ」というコンセプトとも重なり、非常に素敵だと思いました。

【海を越えるねこのしっぽ】

壽さんは、新たに立ち上げた「EN」というブランドの発展に意欲を示しています。育児で大変な思いをしていた時期に周囲の方に支えられた経験から、人の「縁」の大切さを知りました。そして、困っている人が近くにいると助けずにはいられなくなったそうです。

自分から手を差し伸べることにより、お互いが困っている時に支えあう良好な関係を自然とつくることができました。このような体験から、ENというブランドが生まれたのです。

ENは、日本の伝統的な生地にこだわりを持っており、兵庫県西脇市を中心としている「播州織」や、愛知県一宮市を中心としている「尾州織」を使っています。日本の素晴らしい生地を海外に届けていきたいという思いから、日本から比較的近い台湾や香港を中心にファッションショーなどを計画しています。さらに、将来的にはヨーロッパ圏でのコレクションも行いたいと語っていました。

壽さんにインタビューさせていただき、「縁」を大事にしていることがKASANEOの活動と通ずるものがあるなと思いました。また壽さんのパワフルさが私たちのこれからの活動に大きな弾みをつけてくれました。

【今回の取材先】

ねこのしっぽ



2016年に設立した、壽 順子さんによる衣服ブランド。オンラインストアでの出店に加え、手づくり市や百貨店などの行事に幅広く参加する他、大阪中崎町のセレクトショップ「Attic Days」で、取り扱いされています。また、8月14日(水)からは阪急うめだ本店、11月末頃からは阪神梅田本店にてポップアップでの出店が決まっています。

【今回の取材担当】

地域連携学生プロジェクト
KASANEO

2018年設立。高齢者から着なくなった衣服を譲り受け、学生の私物とコーディネートし、ファッションショーや雑誌で紹介するなど、イベントや広報物を介してファッションでつなぐ多世代交流を目指している。



今回取材、記事作成を担当した学生と壽さん。

左から佐藤 理子さん、山木 亜香さん（ともに総合社会学部3年次生）、五十川 宏輝さん（総合社会学部2年次生）